

朝倉文化の名宝

展示品解説

❁ 一乗谷曲水宴詩歌 <令和5年度 収蔵>

永禄5年(1562)8月21日に、一乗谷で催された「曲水宴」で詠まれた和歌・漢詩を1巻に書いた歌集です。5代朝倉義景は大覚寺義俊をもてなすために、都でも絶えて久しい雅な宴を催しました。令和5年度に新たに収蔵した本品は、これまで知られていなかった新出の書写本です。金銀泥彩色の下絵が描かれた美しい色替りの料紙を用いた卷子装丁のもので、優美な筆跡の極めて貴重な作品です。

❁ 朝倉館跡出土木簡 <国指定重要文化財>

朝倉館跡北側の濠の中から出土した木簡です。薄い板片の両面に、和歌と漢詩が墨書されています。「山のはの心」の文字から『源氏物語』夕顔帖の作中歌「山の端の心も知らで行く月は上の空にて影や堪えなむ」を書いたものと考えられます。

❁ 勅撰名所和歌抄 <令和4年度 収蔵>

和歌に名所や地名を読み込む表現技巧、いわゆる「歌枕」の指南書として編纂された名所和歌集です。越前の名所を詠んだ歌として、紫式部が越前下向の途中で「塩津山」を詠んだ歌が選ばれています。箱書きによれば、飛鳥井雅綱の書写本とされています。

❁ 後撰和歌集 <令和4年度 収蔵>

朝倉氏に和歌・蹴鞠両道を教えた飛鳥井雅康(宋世)が書写した本です。奥書によれば、文明10年(1478)4月に勅定(後土御門天皇の命令)によって書写したとされます。飛鳥井雅康は越前田中郷(現・越前町)などに所領を持っていた関係で、都と越前を何度も往来し、朝倉氏へ京文化をもたらしました。

❁ 展示替え ❁ 基本展示の展示替えて、以下の資料等を展示します。

・初代朝倉孝景書状

敦賀気比社の社家東河端氏に宛てた初代孝景の書状です。文明6年(1474)の杣山合戦に関して出されたもので、杣山合戦の戦況を示すものとしては現存する唯一の文書です。

・羽柴秀吉書状

羽柴秀吉が丹後の武士矢野氏に朝倉義景の自刃を伝えた書状で、朝倉氏の敗北を伝えるとともに服属するよう要求しています。

・立花伝書 立花の生け方、飾り方の作法書です。

・犬追物図屏風(複製) 秋景図 紅葉の下で行われる犬追物の様子を描いています。

・刀剣(越前康継作) 江戸前期に越前で作刀していた刀工一派の作品です。